



美を創る
上京の史蹟⑯
京都まつり
上京区民ふれあいまつり
ふれあい史蹟ウォークイング
上京区民ふれあい文化大学
人権講座
秋の上京茶会

上京 史蹟と文化

VOL.14 1998

創竹工房
株式会社
公長齋 小菅 八郎

京都市上京区西洞院一条上る



小菅八郎

京都市上京区西洞院一条上る



小菅家は、天和年間（一六八一—一八二）から今日まで、実に十二代に亘る名家である。中でも、六代目公長は松村與春に師事して四条派の絵画をよくしたところから紀州徳川家に召され、「薩摩紋」を挙領するまでに寵愛されたと伝えられる。そこで、明治三十年（一八九七）、家業の竹工芸を始めるに当たり、この六代目の雅号公長にあやかり、「公長齋小菅」を屋号とした。

日本文化の中で竹の占める位置は木とともに広く大きい。それはただ単に現象面だけではなく、日本人の精神と美的感覺、民族性に深く関わっている。例えば、陰影のある竹の美は、日本人の精神性に侘びの世界を見出したのである。即ち、野生の竹の逞しい生命力、それと同時に華美とは無縁の慎ましく孤独を漂わせる情趣が、私たちの侘びの感受性に適合したものと思われる。特に、桃山時代以降、茶道が発展するに伴い、伐りとられ、年月とともに変わりゆく竹の美、言い換えれば、青さを失い黄色に変色し、やがて褐色から黒ずんでゆく色調の変化が、寂しさの中に美を追求する「侘び茶人」にその価値を認めさせこととなつた。彼らは、雑器の魚籃や鷹の餌入れ、



鉢の鞘などを花入に
なた さや

取り上げ、茶室の天井や窓の装飾、あるいは、茶道具の多くに竹を用いた。中でも、煤竹と呼ばれる使い古された竹の美しさを愛する美意識は、他の民族には例を見ない日本人の独創性であろう。

公長齋小菅は、明治三十七年（一九〇四）、セントルイスを始めとする欧米の万国博覧会などで数々の受賞をして以来、その優れた技術と伝承の中に、使い込むほどに良さ、美しさを竹に求め、創り出すことを基本として、新しい歩みを続けられた。そして、今やその品質と独創性は常に業界をリードし、海外でも厚い信頼を得ている。プラスチック製品が氾濫する今日、私たちはもう一度原点を見直し、二十一世紀の生活文化に相応しい素材としての竹に目を向けてはならないのではないだろうか。



公長齋小菅は、明治三十七年（一九〇四）、セントルイスを始めとする欧米の万国博覧会などで数々の受賞をして以来、その優れた技術と伝承の中に、使い込むほどに良さ、美しさを竹に求め、創り出すことを基本として、新しい歩みを続けられた。そして、今やその品質と独創性は常に業界をリードし、海外でも厚い信頼を得ている。プラスチック製品が氾濫する今日、私たちはもう一度原点を見直し、二十一世紀の生活文化に相応しい素材としての竹に目を向けてはならないのではないだろうか。

上京の史蹟

その十四

上京の歴史的推移

京都を救つた人々（三）（明治その七）

山本覚馬良晴
（やまととかくま よしはる）

（一八二八）一八九一（その一）

前々号、前号に亘つて濱岡光哲の事跡に就いて述べましたが、私たちが今日忘れてはならない人物がもう一人おられます。その人の名は山本覚馬、会津藩出身の砲術家であり、新島襄に協力して同志社を設立した功労者です。また、明治の初めから京都府の顧問として、その後は初代京都府議会議長として京都発展のため寄与した人物であります。実は、濱岡光哲をしてあのように大きな事業を成し遂げることができたのも、その背後に山本覚馬がつき指導したからにはほかなりません。

覚馬の生い立ちと会津藩での功績

山本覚馬は、文政十一年（一八二八）一月十一日、会津藩士・山本権八の子として生まれました。山本家は甲州の軍師・山本勘助入道の後裔といわれ、家の格式は高かったのですが俸禄は僅かに十人扶持という貧しい家庭でした。

尚武の気風が高い会津藩に生まれた彼は、幼少の頃より質実剛健の気質を身につけ、五歳の時、唐詩選の五言絶句を暗唱し城内の大人を驚かせるという逸材ぶりを發揮しました。しかし、本人は余りそのことには頓着せず、むしろ武芸に精を出し、山野を駆け巡り自由奔放な日々を過ごしていたといわれます。

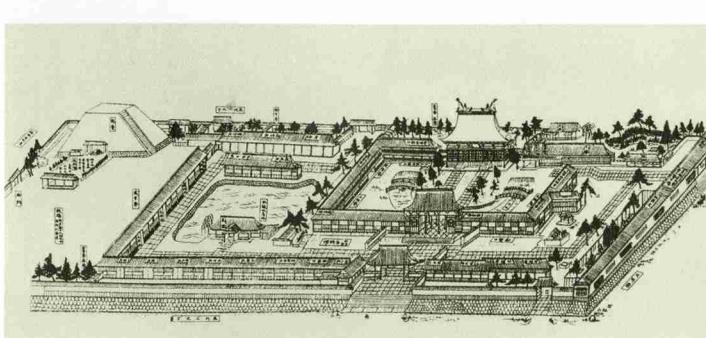
嘉永六年（一八五三）夏、二十五歳になつた彼は、藩命により砲術研究のため学問の師であった林鷹助に随行して江戸へ赴きます。時あたかもペリー提督率いる四隻のアメリカ軍艦が浦賀

に入港、大統領の国書をもつて開港を迫ったときであり、江戸はこの事件で騒然としておりました。この現実目の当たりにした覚馬は、新しい時代の波がひしひしと寄せてくるのを肌に感じます。

当時の江戸では既に洋式の砲術が採り入れられ、その研究が盛んに行われていました。彼は早速これら研究家の門を叩き、その習得に努めると同時に、自ら鉄砲の铸造製作までを実習し、近代兵器に関するあらゆる知識を身に付けるべく励むのでした。その一方、西洋近代兵学を通して世界の動向を学ぶ

ため、先覚者として有名だった江川太郎左衛門、佐久間象山、勝海舟などを歴訪し、近代兵学に関する意見を聞き、この最新知識を習得するためには原書に接しねばならぬことを痛感するのでした。五年間の江戸滞在中、彼は寝食を忘れ西洋近代兵学とオランダ語の勉学に励みます。後年の彼の失明はこのときの猛勉強と激しい射撃訓練のため火薬によって目を侵されたのが原因だともいわれています。苦心の末、近代兵学と蘭学を身に付けた覚馬は、故郷の会津に帰国します。

若き藩主・松平容保は帰国した覚馬を藩校「日新館」の教授に迎え、新たに蘭学所を設け、会津藩の改革に乗り出しました。しかし、鎮国攘夷の風潮が支配していた当時、家伝の宝蔵院流の槍術でもって外夷の堅陣を突破する



会津藩校「日新館」全図

写真提供：会津武家屋敷文化財管理室



会津藩主松平容保公肖像

写真提供：会津武家屋敷文化財管理室



京都守護職・松平容保公上洛

写真提供：会津武家屋敷文化財管理室



蛤御門で戦う会津軍

写真提供：会津武家屋敷文化財管理室

意気込みを示す頑固一徹な会津武士には、彼が提唱する火縄銃から洋式銃への兵器の改良や飛び道具による近代戦術は受け入れられず、抗議をした彼の言葉が忌諱に触れ、そのため一年余り禁足処分を受けることになります。その間、時勢の変化を敏感に察知していいた林権助などが諸重役に時代の流れを説き、彼の意見を採用させるべく奔走します。林のこうした努力が実り、覚馬は軍事取調兼大砲頭取の重任を命じられることになりました。彼は着任早々、日新館の中に射撃場を設け、士官以上のものを対象に洋式銃の訓練を行いました。使用された銃は、江戸で購入したゲーベル、ミュンヘルの他、彼ら自らが設計し会津の鍛冶屋で造らせたものがありました。

京都守護職・松平容保公上洛
写真提供：会津武家屋敷文化財管理室

幕末の風雲急を告げる中、京都の街では諸藩の勤皇、佐幕両派の過激派が跳梁し、血腥い事件が日夜を分かたず起こり、もはや所司代だけでは手のつけられない状態に発展していました。この問題を重く見た幕府は、会津藩を京都に派遣し事件の鎮圧と、宫廷の守護を申し付けます。文久二年（一八六二）十二月、会津藩主・松平容保は京都守護職として家臣千名を率いて京都に入ります。山本覚馬もまた銃砲隊を指揮し、これに加わりました。彼と京都との運命的な出会いがこのとき始まりました。

入洛した彼は、藩命に従います砲兵隊を御所に配備して警護に当たらせます。次いで、物情騒然とした中にも拘らず、西洞院上長者町上るにあつた一

行いました。使用された銃は、江戸で購入したゲーベル、ミュンヘルの他、彼ら自らが設計し会津の鍛冶屋で造らせたものがありました。覚馬もまた、川端丸太栗原唯一が担当したと伝えられます。

文久三年（一八六三）、会津、薩摩を中心とした公武合体派と尊皇攘夷を掲げる長州藩との間で公卿を巻き込んだ大事件が発生します。公武合体派のクーデターに破れた長州藩は、七卿を伴い恨みをのんで長州に引き上げます

が、憤懣やるかたなく、翌元治元年（一八六四）夏、七卿と藩主の免罪を請うことを口実に軍勢を率いて上洛し、嵯峨、山崎、伏見に陣取つて、今にも市中に進撃する勢いを示します。この脅迫的行為に朝廷を始め市民は恐怖おののきます。

元治元年七月十九日早曉、長州軍は遂に御所に向かって戦いを挑みます。世にいう「蛤御門の変（禁門の変）」の幕開けです。（「蛤御門の変」については本誌七号に詳しく述べましたので今回は省略します）この戦いの中で鷹司邸に立て籠もり果敢に抵抗する長

州軍を砲撃によって打ち破ったのが、山本覚馬率いる会津

向宗の寺院を借り、洋学所を設け、広く藩外の人にも開放しました。この洋学所で、英学を担当したのは仙台藩士の横山謙助、蘭学は京都在住の蘭方医・栗原唯一が担当したと伝えられます。

文久三年（一八六三）、会津、薩摩を中心とした公武合体派と尊皇攘夷を掲げる長州藩との間で公卿を巻き込んだ大事件が発生します。公武合体派のクーデターに破れた長州藩は、七卿を伴い恨みをのんで長州に引き上げます

が、憤懣やるかたなく、翌元治元年（一八六四）夏、七卿と藩主の免罪を請うことを口実に軍勢を率いて上洛し、嵯峨、山崎、伏見に陣取つて、今にも市中に進撃する勢いを示します。この脅迫的行為に朝廷を始め市民は恐怖おののきます。

一方、諸般の状況を考え、これ以上政権を維持することの困難さを痛感した幕府は、慶応三年（一八六七）十月十四日、朝廷に対して大政を奉還しました。幕府としては、大政奉還後も新政府内で主導権を得ることを前提に考えた苦肉の策であつたようです。しかし、状況はそのように甘いものではなく、十二月九日、薩摩、土佐、広島の藩兵が御所の全ての門を固めるという嚴戒体制の中、王政復古の大号令が出されました。

（以下次号に続く）



▲火入式



▲舞樂 春庭樂



▲琴演奏 唐砧



▲舞囃子 逆矛



三十三回を迎えた恒例の「上京区薪能」は九月二十一日に、白峯神宮を会場として行なわれました。篝火のもと七百五十人が重要無形文化財の至芸を鑑賞しました。

第一部の上京区民による舞囃子や仕舞、琴の演奏が日の傾きかけた午後四時から演ぜられ、火入式のあと六時からの第二部は、まず、いちひめ雅楽会による舞樂「春庭樂」、宮城会の琴演奏「唐砧」によって始まりました。種田道雄、河村隆司、河村晴夫各師らの仕舞九番、河村禎二師の舞囃子「逆矛」、茂山十三郎師らによる狂言「嵐牛」のあと、シテ浅井宏泰師の能「嵐山」が演じられて、幽玄の美に浸りました。

外科・胃腸科・小児科・整形外科
肛門科・小児外科・泌尿器科・放射線科
吉岡病院

診療時間 午前9時～午後12時半、午後6時～午後8時

土曜 午前9時～午後12時

日曜、祝日、土曜午後 休診

〒602-8462 京都市上京区浄福寺通今出川下る

☎(075) 451-0164

京・上御靈前烏丸西
四〇七五・四四一・〇六一〇代

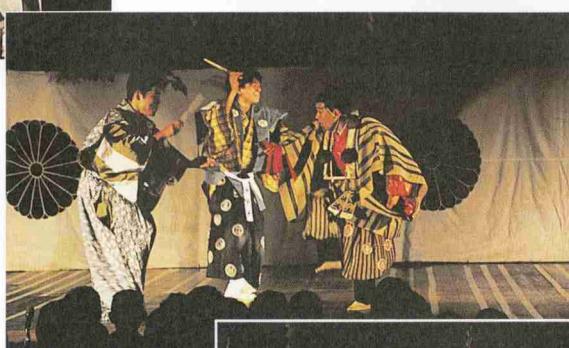
元祖
ばたん鍋と
京料理
烟かく



▲仕舞 天鼓

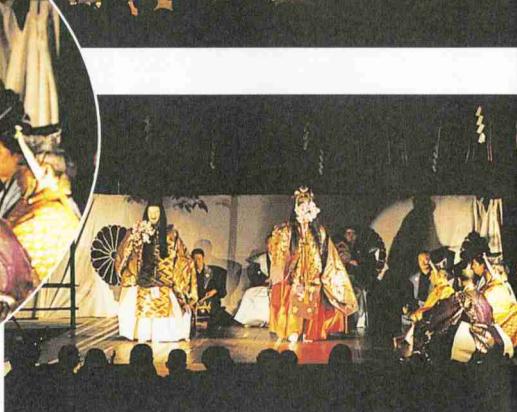
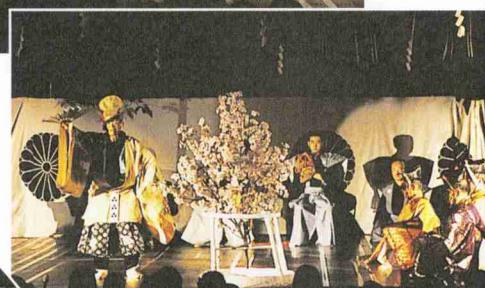


▲仕舞 杜若



◀狂言 蝸牛

◀能 嵐山 ▶



〒605-0006
京都市東山区大和大路三条下ル
新五軒町一八一
TEL(075)525-1511
FAX(075)525-1009

季節料理

い
回

イタリアが好き！
イタリア料理専門店

レストラン

フクムラ

河原町店 中・六角河原町東入 255-5733(水・休)
四条店 中・富小路四条上ル 255-2060(火・休)
(株)イタシヨク(イタリアワイン・食品輸入元)(小売歓迎)
北・紫野大徳寺門前町 491-0900

京

都

ま

つ

り

京都市民の秋の文化祭典「第四回京都まつり」の都大路パレードは、十月二十六日に新装なった御池通を会場として、七十三団体、一万余人によつて繰りひろげられました。上京区では、例年の「上京の昔話」をテーマに「天神さんの牛」と名づけたフロートを中心三百人の上京区民が恒例の和服姿で参加しました。





「京都まつり」前日祭

第7回

上京区民ふれあいまつり



七回目となった「上京区民ふれあいまつり」は、十月二十五日に「京都まつり」の前日祭として嘉楽中学校の校庭で行なわれました。八千人の上京区民が各団体の模擬店に押し寄せ、ステージでは賑やかな演技がくるひろげられ、京都まつりに繰り出される「天神さん牛」のフロートを背に写真を撮りあう姿も見られました。



第7回

上京区民ふれあい 史蹟ウォーキング



七回目を迎えた「上京区民ふれあい史蹟ウォーキング」は、十一月十六日に上京区南東部一帯で「京都御苑と鴨川を歩く」として三百余人の区民が参加しました。今回は新島襄旧邸、清荒神、宗像神社の三カ所を集合地として途中、頼山陽書齋の山紫水明処、梨木神社、桜松、九条池など、ガイドマップを手に四キロのコースを歩きました。

特に新島襄旧邸の内部も見学でき、日頃、散歩路としている人も、見逃していた史蹟に改めて興味を示していました。



上京区民 ふれあい文化大学 文化体験講座「花」

上京区民ふれあい文化大学では、新しい試みとして、花や木の自然を生活の一部に取り入れられるような文化活動を取り上げました。

その一つは「花や木の心をとつえる」をテーマに上京区在住の写真家、濱岡昇氏を講師に迎えて写真による講義と実習を十月三十一日と十一月二十日に行い、京都御苑と同志社アーモスト館を対象として撮影の腕を競いました。

二回目は十一月二十五日に、フラワー アレンジメントとして、花工房の白居季生氏の花にまつわるエピソードを聞きながら手作りのクリスマスリース作りに挑戦し、立派な作品ができたようです。



身近な人達と ほのぼの生活笑百科

弁護士三瀬顯氏

NHKテレビの「生活笑百科」も十四年、上沼さんの大ボラ、凄いです。淡路島私のもんです、大阪城も私のもんです“と無茶苦茶言いよるけれど、あれがいいんですよ。最初からホラと分かっているから、あれがウソだつたら人から憎まれます。小さなウソ、人に迷惑をかけないようなウソならないんだけれど、人をだましてから金巻き上げたるかとかという場合にはウソは詐欺になりますし、不法行為になつて責任取らざれる。だから最初から大きなホラ吹いとけば誰も信用しない。最初からウソやつて分かる。

一ヵ月前に信州へ行った時、松本駅のプラットホームで”笑百科見てまつせ、おもろいでんな”“ありがとうございます”“”とおたくは弁護士

さん役の方でんな“驚きましたよ、芸人さんが弁護士役で出てると思い込んだる、頭から。時々そういう質問をうけるんだけど、僕もいい男だから誤解されても仕方がないと思うんです。

男も女も平等

この間、松葉蟹を事務所に送つてくれたんです。うちの事務所に来たものは皆で平等に分けます。事務所の人数で分けるのか、家族背景を考えのか、それだけ難しいですがな。

憲法十四条—すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない—とあるけれど、はたして戦後五十年経つて平等というのは十分ですか。これは難しいですよ。国を見て



会社の中はどうです。労働基準法第三条は均等待遇といふことで平等に扱いなさいといふとるけれど、平等いうても採用の時なんか競争が激しいから雇用機会均等法なんか作りながら、結局、企業は抜け穴でやつてしまふ。就職しても、結婚する時はどうですか。

”おめでとう、結婚したの、妊娠したんかいな、いつ家にはいるんだい。いつ会社やめるの、やめる時は言うてくれやな、後の手続きが必要やら早う言うてくれよ“。自然に言うてますがな。最高裁判所はずつと昔から結婚退職という就業規則は憲法十四条に違反すると言うとるんだけど、

くださいよ。男も女も平等にある。投票権も持つてゐる。だけど今、日本国に女の大臣は一人もおりません。女も半分くらいは大臣になるべきなのに、戦後五十年経つて、ほんのわずか女性の大臣ができただけです。スウェーデンでは四割ぐらいが女の大臣です。すごいですよ。二十人の中の七、八人が大臣、三割ぐらいが女の代議士でつせ。

現実にはありますがな。男が結婚する。”太郎君おめでとう。結婚したのに退職するんだい“こんな言つたら非常識ですわな。”育児で会社やめるんでやめる”“そうかそうか”。男に対して言うたら非常識だけど、女に對して言うたら親孝行やな、やめなはいつて。だからわれわれの常識をもう



一回疑わんとあかん。男にとつては当たり前でも、女にとつては当たり前じやない。男も女も同じはずなのに、そこんところがおかしいと違うかなあつて疑問を持つところから始まらんと日本は変わらんのですわ。

幸福追求の権利

憲法十三条に「幸福追求の権利」という奇麗な言葉があります—すべて国民は個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利に

立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする—この権利の中からいろんな権利がてくるんです。例えばプライバシー、人のことをとやかく言わる、あの人は前科持ちよ、あの人は不倫やつてるーと陰口を言う。それが世間に知れ渡る、職場に知れわたる。そうしたら恥ずかしくて働きにも行けないし、地域社会での活動も制約されます。家の中におらんと恥ずかしくてたまりません。プライバシーの損害は名譽棄損になりますよ。侮辱罪になりますよ。民法でいうたら不法行為になります。慰謝料払いなさいよという形で制裁される。だけど、週刊誌もテレビもワイド番組でワーッとプライバシー出してますがな。好きなんです、みんな人のうわさが。ここらが難しい。だから法律の理念と現実がなかなか噛み合わない。

皆さん考えてくださいや。プライバシーを侵害されたら平穏な日常生活が営めない。幸福追求が疎外される。だから幸福追求は一番大事な権利なんです。

いい環境で暮らす

美しい環境を守る義務があるんだ、

十二月十三日にホテルニューカナダで開催された上京区民ふれあい事業実行委員会主催の「人権月間講演会」の内容を要約しました。

については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする—この権利の中からいろんな権利がてくるんです。例えばプライバシー、人のことをとやかく言わる、あの人は前科持ちよ、あの人は不倫やつてるーと陰口を言う。それが世間に知れ渡る、職場に知れわたる。そうしたら恥ずかしくて働きにも行けないし、地域社会での活動も制約されます。家の中におらんと恥ずかしくてたまりません。プライバシーの損害は名譽棄損になりますよ。侮辱罪になりますよ。民法でいうたら不法行為になります。慰謝料払いなさいよという形で制裁される。だけど、週刊誌もテレビもワイド番組でワーッとプライバシー出してますがな。好きなんです、みんな人のうわさが。ここらが難しい。だから法律の理念と現実がなかなか噛み合わない。

この美しい環境を子供や孫たちにそのまま引き渡さんといかんのやないか。義務ですよ。それだけじゃなくて、われもいい環境の中で暮らす権利があるんだ。環境権、これが一番大事です。だけど憲法ができた当時に環境がこんなに汚染されると誰も想像できませんでしたから。人間がどんなに腐敗しても、どんなに殺し合っても自然は依然として自然として厳然として残ってきた。戦後五十年、いやこの二、三十年の間に環境を物凄い勢いで破壊しましたがな。山の木を切り倒し、鳥たちが住めない、獣が住めない、いろんな汚れが川へ海へ流れていく。オゾン層が破壊され、二酸化炭素が空を覆い、もういろんな形で汚染している。

だから人権の基本は環境権だ。われわれは環境を守る義務がある。美しい環境で生きる権利がある。そう、もう一度改めて考えてもらいたいなあ。

花にまつわるエピソード…
季節も添えて演出します。

FLOWER OFFICE

花工房

2F カフェ

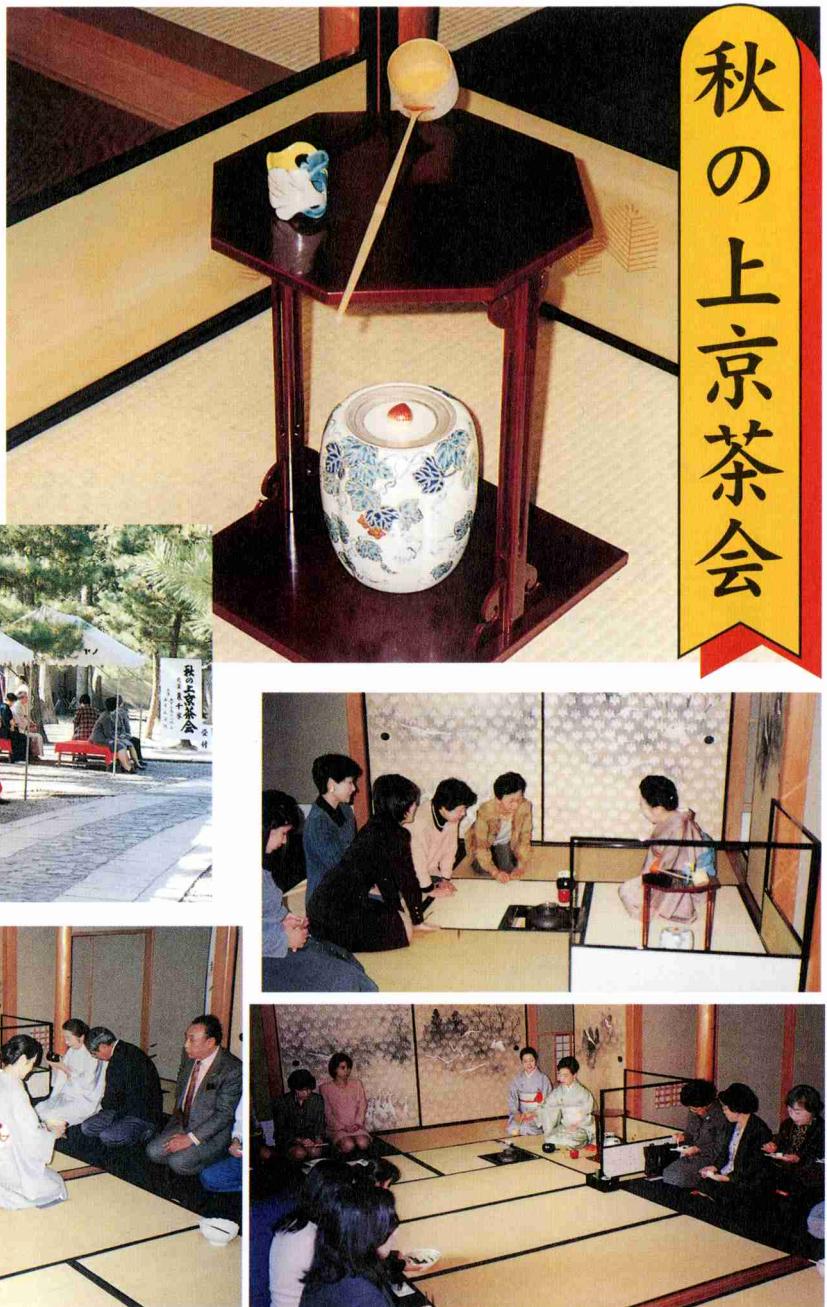
花キューピット
62-071

全国どこへでもお花をお届けいたします。
京都市上京区烏丸通今出川下ル 〒602-0903
TEL 075-414-8700(代) FAX 075-414-7787

本家 五寿軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319
(075) 414-0319

秋の上京茶会



平成九年秋の「上京茶会」は、十一月九日に大徳寺山内の三玄院において淡交会京都東支部の懸賞により催されました。五百人もの参加者は薄茶の一碗に住びの境地に浸り、境内の紅葉に秋のひとときを過ごしました。

待合床 紅葉の絵 川島梅閑画
会記

本席

床 鵬雲齋御家元一行
山中無曆日

花入 白玉椿 万作照葉

香合 竹一重切 銘吉祥 正玄作

風炉先 松ぼっくり 陶兵衛造

釜 丸釜 与齋造

龟甲松 吉兵衛製

炉縁 淡々齋好

金銀唐松蒔絵 岡本陽齋作

棚 寿棚

水指 瓜栗 阿山造

薄器 鵬雲齋御家元在判 菊 近左作

茶杓 淡々齋作 銘松風

茶器 黒政所窯

替 吹寄せ 永楽造

建水 餌畚 净益作

蓋置 鴨脚 久宝造

茶器 常磐の昔 柳桜園詰

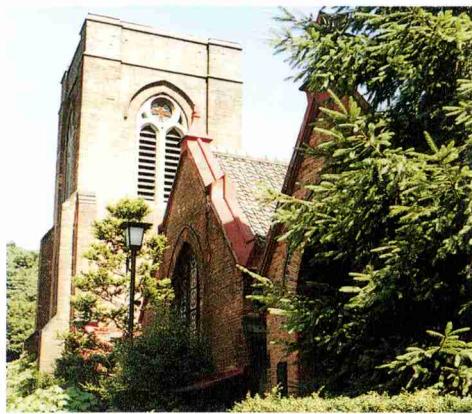
火入 文管 表朔作

煙草盆 光右衛門造

前回の正解は

聖アグネス教会

編集後記



読者の声

- 組紐の優秀技術者大岡信重氏を知りまた下長者町の濱岡家の歴史を読み、上京区の奥の深さを知りました。
- （室町・小林清六）
（出水・黒川盛夫）
- 七十年以上住んでいて、まだ知らない事が多いので勉強になります。
- （吉岡たすく先生）「教育よもやまばなし」の講演会には行けなかったので誌上で拝見し、明るい家庭のすばらしさを自分のために心がけたいものです。
- （室町・奥田久子）



？これはどこでしよう？？

平安女学院の教会堂として知られていますが、現在は別の宗教法人となつてゐるため、日本聖公会聖アグネス教会の聖堂の名称で京都市指定有形文化財となつています。

アメリカ人ガーディナーの設計になりました。三廊式バシリカ型の聖堂に八角平面の洗礼堂、三層の鐘塔等からなり、重厚な煉瓦造の外観を烏丸下立売角に見せています。

△三瀬顯氏の講演は、あまりにも面白く、内容も濃いものでしたが、残念ながら、ほんのさわりだけしか載せられませんでした。なるべく語り口を生かした文章にして、講演の雰囲気が伝わるよう努力してみました。（い）

- 正解者の中から抽籤にて二十名の方に記念品をお送りします。
- 締切 平成十年四月十五日
- 正解と住所・学区・氏名・電話番号を記入の上
- 〒六〇一・〇九三一 京都市上京区
今出川通室町西入 上京区役所
地域振興課「上京・史蹟と文化」
宛てにハガキでお送り下さい。また本誌の読後感もお書き下さい。

永年の信用と実績・真心のこもったご奉仕

葬祭センター

京都 公益社

本 社・京都市中京区烏丸通三条下ル ☎(075)221-4000代
北 公 益 社・京都市北区紫明通堀川東入 ☎(075)431-7121代
中 公 益 社・京都市東山区五条通東大路東入 ☎(075)551-0042代
南 公 益 社・宇治市槇島町（文教大学前） ☎(0774)20-0042代

●葬儀式場
公益社ブライトホール／京都市東山区五条通大和大路 ☎(075)551-5555代
公益社槇島会館／宇治市槇島町（文教大学前） ☎(0774)20-0142代
公益社滋賀会館／大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042代

断ちきろう 身近な差別を 私から

表紙／京都御苑の梅：中島孝迪氏撮影



HUMANITY PLANNING
YASUO IZAWA OFFICE
Co., LTD.

人の関わりから、もの創りが——。
株式会社 井澤 保夫事務所
〒605-0826 京都市東山区高台寺柳屋町354
Tel & Fax. 075-525-6301

人々との出会いを求めて
井澤保夫事務所は
コミュニケーションスペースです。

一つのもの創りを通じ
マネージメントからイメージ創りまで
築きあげてきた幾多の実績を元に
トータルプランニングの
お役に立ちたいと存じます。

私たちの基本ポリシーは
「人と人との関わりから、
もの創りがはじまります。」が
テーマなのです。

お客さまとのコミュニケーションが
一番、大切であると確信致しております。

どうぞ、お気軽にオフィスにお立ち寄り下さい。
ビジネスのこと。
世の中のこと。
人生のこと。
いろいろ話し合いながら、
何か新しい夢をご一緒に見つけてみませんか。

主宰 井澤保夫

STAFF

スペースプランナー ■ 佐藤利明
メディアプロデューサー ■ 東藤秀明
ビジュアルプランナー ■ 西村五子
メディアプリントイング ■ 小野昌二
インテリアプランナー ■ (株)トキハ
一級建築事務所 ■ (株)L・E・C
マルチメディアソフト開発 ■ (株)ジャイブメディア